

埼玉学園大学・川口短期大学 機関リポジトリ

<翻訳> シノド本

『系譜の書』（Родословная
книга）におけるチンギス裔系譜

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2016-07-04 キーワード (Ja): キーワード (En): Chinggis qan (Genghis Khan), The Golden Horde (Kipchak Khanate), Astrakhan Khanate, Kazan Khanate, Crimean Khanate 作成者: 赤坂, 恒明 メールアドレス: 所属:
URL	https://saigaku.repo.nii.ac.jp/records/312

This work is licensed under a Creative Commons
Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0
International License.



翻訳

シノド本『系譜の書』(Родословная книга)におけるチンギス裔系譜 The Genealogy of the Chinggizid Family in *Rodoslovnaya kniga* (Sinod text)

赤坂恒明 訳

AKASAKA, Tsuneaki

モンゴル帝国の西北部を構成したジュチ・ウルス(チンギス・ハンの長男ジュチの^{ウルス}くに)は、通説的に、ロシアを支配したモンゴル人——彼らをロシア人はタタール人と呼称した——の政権「金帳汗国(キプチャク汗国)」として知られている¹⁾。

十五世紀以降、ジュチ・ウルスの分裂に伴い、通説では、その西半部に、「大帳汗国」の正統政権として位置づけられる「大帳」(Большая Орда)、および、アストラハン・カザン・クリミアの所謂「タタール三汗国」、非チンギス裔のマンガト氏の「ノガイ・オルダ」が成立したとされる。

これらの諸政権は、モスクワ＝ロシアやリトアニアと密接な関係があり、チンギス裔のタタール王族や、ノガイ・オルダのエディゲ裔を中心とする非チンギス裔貴族の中には、ロシアやリトアニアに移住して、その地において貴族に列した者も少なくない²⁾。

そのような歴史的背景のもとに、ジュチ裔を中心とするチンギス・ハンの子孫や、ノガイ・オルダのエディゲの子孫の系譜が作成され、それらの恐らく一部が、何種類か残されているロシア系譜史料のなかに伝えられて現存している。

それら、モンゴル系の王族・貴族の系譜は「タタール系譜」と称され、いくつかの先行研究において取り上げられている。即ち、帝政ロシア期には「カシモフ汗国」に関する重厚な史書を編集したV.V.ヴェリヤミノフ＝ゼルノフの『カシモフの皇帝たちと皇子たちについての研究』³⁾が代表的な研究である。

しかし、ソビエト時代には、系譜研究自体が十分に行われず、「タタール系譜」もほとんど研究されなかった。

ソビエト連邦崩壊後、ようやく系譜史料が見直されるようになり、「タタール系譜」については、ハンガリーの碩学ヴァーシャーリ⁴⁾が本格的な分析を行い、また近年では、ロシアの若手研究者ベリャーコフ⁵⁾によって積極的に使用されるなど、研究が急速に進展しつつある。

本稿では、それら「タタール系譜」のうち、『ロシア歴史・古代帝室モスクワ協会紀要』第10号(Временник Императорского Московского общества истории и древностей российскихъ, книга десятая, 1851)所収の国立歴史博物館(Государственный исторический музей)所蔵シノド本『系譜の書』(Родословная книга) [синодальное собрание, No.860]の127～128頁に中世ロシア語テキストが収められている、「大帳^{オルダ}の皇帝たちの一族」(Родъ Царей болшие Орды)と題する系譜を取り上げ、中世ロシア語テキストを伴った日本語訳注を行う⁶⁾。

表題に「大帳^{オルダ}」とあるが、本系譜に収められているのは、チンギス・ハンの四子——ジュチ、チャガタイ、オゴデイ、トルイ——の子孫である。従って、この「大帳^{オルダ}」とは、モンゴル帝国全体を指していると考えられ、所謂「金帳汗国」分裂後の正統政権として通説的に位置づけられている「大帳^{オルダ}」とは概念的に異なっていることが知られる。

本史料の原テキストの成立は、本文中の記載から、クリミア汗デヴレト＝ギレイ [1-5-4-1-1-1-6-1] が在位していた1551～1577年の期間においてであったと考えられる。

本史料に収められている系譜情報のうち、モンゴル帝国期にかかるものは、史料の価値は極めて低い。特に、チャガタイ裔とオゴデイ裔については、一人

キーワード：チンギス・ハン、金帳汗国(キプチャク汗国)、アストラハン汗国、カザン汗国、クリミア汗国
Key words : Chinggis qan (Genghis Khan), The Golden Horde (Kipchak Khanate), Astrakhan Khanate, Kazan Khanate, Crimean Khanate

たりとも史実と合致する所がない。しかし、「金帳汗国」分裂期以降のジュチ裔の系譜情報については、不正確なものも含まれてはいるものの、基本的には有用である。

また、本史料の系譜情報には、モスクワ＝ロシアに移住したタタール王族・貴族たちによって認識されていた系譜知識が反映されている可能性が高い。よって、彼ら自身の歴史認識など、当時の知的状況の実態を窺い知る上でも、本史料から興味深い情報を得ることができる。

しかし、本史料の系譜情報に対する検討・分析は、他の「タタール系譜」の情報との比較をも行った上で、稿をあらためて論じる必要があろう^{*7}。

*1 ジュチ・ウルスと「金帳汗国（キプチャク汗国）」の各概念をめぐる諸問題については、赤坂恒明 2004を参照されたい。

*2 ロシアに移住したタタール王族・貴族に関する包括的な研究としては、Kennedy 1994、Belyakov 2011 等がある。

*3 Vel'yaminov-Zernov 1863-1887.

*4 Vásáry 2008.

*5 Belyakov 2011 等。

*6 本史料は、シンポジウムの報告書に収録された赤坂恒明 2010, pp.79-84 において、参考資料として訳文が掲げられているが、ほとんど注もない極めて不十分なものであるため、あらためて本稿において取り上げた次第である。

*7 なお、ロシアの「タタール系譜」の情報と、モンゴル帝国解体後の中央アジア・西アジア等で編纂されたペルシア語・チャガタイ＝テュルク語史料におけるジュチ裔系譜情報との比較・検討は、赤坂恒明 2010 において部分的に行われている。

Belyakov 2011 : A.B.Беляков, *Чингизиды в России XV - XVII веков. Просопографическое исследование*. Рязань, Издательство «Рязань. Мир», 2011.

Vel'yaminov-Zernov 1863-1887 : В.В.Вельяминов-Зернов, *Исследование о Касимовскихъ царяхъ и царевичахъ*. часть первая; часть вторая; часть третья; часть четвертая, выпускъ первый. Санктпетербургъ,

1863; 1864; 1866; 1887.

Craig G.Kennedy, *The Juchids of Muscovy: A study of personal ties between émigré Tatar dynasts and the Muscovite grand princes in the fifteenth and sixteenth centuries*. Ph.D. Harvard University. 1994.

István Vásáry, "The Tatar ruling houses in Russian genealogical sources". *Acta Orientalia Academiae Scientiarum Hungaricae*, Volume 61, Number 3, Budapest, Akadémiai Kiadó, 2008.9, pp.365-372.

赤坂恒明「『金帳汗国』史の解体——ジュチ裔諸政権史の再構成のために——」『内陸アジア史研究』第十九号, 2004.3, pp.23-41.

赤坂恒明『ジュチ裔諸政権史の研究』東京, 風間書房, 2005.2.

赤坂恒明〔シンポジウム報告〕「ペルシア語・チャガタイ語諸史料に見えるモンゴル王統系譜とロシア」『北海道大学スラブ研究センター 共同利用・共同研究拠点公募プログラム・シンポジウム 北西ユーラシア歴史空間の再構築 ロシア外部の史料を通じてみた前近代ロシア世界 報告書 2009年10月31日（土）・11月1日（日）北海道大学スラブ研究センター大会議室』, 名古屋, 2010.3, pp.43-91.

凡例

- ・上段に中世ロシア語テキスト、下段に日本語訳を配し、末尾に、人物に関する簡単な注を付けた。なお、ジュチの子孫については、赤坂恒明 2006 の付録「ジュチ裔系図」の関係箇所をも参照されたい。
- ・中世ロシア語テキストが活字化された際、句読点が新たに付けられたが、なかには不適切なものもあるので、句読点にはこだわらずに訳出した。また、大文字と小文字にも、必ずしもこだわることなく、訳出した。
- ・【 】内にはページ数と注記を、[] 内には人物の整理番号とテキストの補訂を記した。末尾の注は、この整理番号順に排列されている。
- ・キリル文字のラテン文字転写において、非ロシア語語彙における、子音に続く「ы」「я」「ю」は、それぞれ「i」「ä」「ü」と転写した。

テキストと日本語訳

【стр.127】

Родъ Царей болшіе Орды
大帳の皇帝たちの一族

Царь Чингисъ,

皇帝チンギス Tsar' Čingis。

а у Царя Чингиса дѣти:

そして、皇帝チンギス Tsar' Čingis には、諸子[がいた]。

первой Ючи Царь,

第一 ユチ皇帝 Yüci Tsar' [1]

другой Чагадай Царь,

第二 チャガダイ皇帝 Čagaday Tsar' [2]

третей Угудей Царь,

第三 ウグデイ皇帝 Ugudey Tsar' [3]

четвертой Тулей Царь.

第四 トウレイ皇帝 Tuley Tsar' [4]

А у Ючи Царя дѣти:

そして、ユチ皇帝 Yüci Tsar' [1] には、諸子[がいた]。

Берканъ Царь,

[第一] ベルカン皇帝 Berkan Tsar' [1-1]

да Итоктя Царь,

及び、[第二] イトクテャ皇帝 Itoktä Tsar' [1-2]

Итоктинъ сынъ Изебякъ Царь,

イトクテャ Itoktä [1-2] の子息は、

Изебякъ Изебенханъ Царь,

Изебяковъ сынъ Язебенханъ Царь,

Изебякъ Izebäk [1-2-1] の子息は、

Язебенеханъ Царь Yazebenexan Tsar' [1-2-1-1]。

Язебенхановъ сынъ Жалебекъ Царь,

Язебенеханъ Yazebenexan [1-2-1-1] の子息は、

Жалебекъ Царь Žalebek Tsar' [1-2-1-1-1]。

третий Чисарей Санъ Царь,

第三 チサレイ＝サン皇帝 Čisarey San Tsar' [1-3]

четвертой Иземъ Царь,

第四 イзем皇帝 Izem Tsar' [1-4]

пятой Туатемиръ Царь,

第五 トウアテミル皇帝 Tuatemir Tsar' [1-5]

шестой Баштемиръ Царь,

第六 バシュテミル皇帝 Baštemir Tsar' [1-6]

А у Чисарей Санова сына

そして、チサレイ＝サン Čisarey San [1-3] の子息
には、【ママ】

у Туатемиря 6 сыновъ:

トウアテミル Tuatemir [1-5] には、六 [人の] 諸子
息 [がいた]。

первый сынъ Тогозя Уланъ,

長男 トゴズヤ・ウラン Togožä Ulan [1-5-1]。

Тогозиновъ сынъ Улановъ Тахтамышъ Царь,

トゴズヤ Togožä [1-5-1] の子息ウランのタフタムイ

シュ皇帝 Taxtamış' Tsar' [1-5-1-1]

【※「Тогозя Улановъ сынъ Тахтамышъ Царь, トゴ
ズヤ・ウランの子息は、タフタムイシュ皇帝」とあ
るべきもの】。

Тогозиновъ братъ Тахтамышовъ дядя, Темиръ Бекъ
Уланъ,

トゴズヤ Togožä [1-5-1] の兄弟[にして]タフタムイ
シュ Taxtamış [1-5-1-1] の従父は、テミル＝ベク・
ウラン Temir Bek Ulan [1-5-2]。

Темиръ Бекъ Улановъ сынъ Темиръ-Кутлуй Царь.

テミル＝ベク・ウラン Temir Bek Ulan [1-5-2] の子
息は、テミル＝クトルイ皇帝 Temir-Kutluy Tsar'
[1-5-2-1]。

А Темиркутлуевы дѣти:

そして、テミルクトルイ Temirkutluy [1-5-2-1] の諸
子は、

первой сынъ Ахметъ Царь,

長男 アフメト皇帝 Axmet Tsar' [1-5-2-1-1]

другой сынъ Махмутъ Царь

次男 マフムト皇帝 Maxmut Tsar' [1-5-2-1-2]

[третей сынъ] Седиахматъ;

[三男] セディアフマト Sediaxmat [1-5-2-1-3]

у Седиахмата дѣти Хозякъ Салтанъ,

セディアフマト Sediaxmat [1-5-2-1-3] には、諸子
[がいた]。ホズヤク・サルタン Xozäk Saltan [1-5-2-
1-3-1]。

а у Хозякъ Салтана [сынъ] Якубъ Салтанъ,

そして、ホズヤク・サルタン Xozäk Saltan [1-5-2-1-3-1] には、[子息が] ヤクブ・サルタン Yakub Saltan [1-5-2-1-3-1-1]。

а у Якубъ Салтана [сынъ] Нашиговлеяръ Салтанъ,
そして、ヤクブ・サルタン Yakub Saltan [1-5-2-1-3-1-1] には、[子息が] ナシゴヴレヤル・サルタン Našigovleyar Saltan [1-5-2-1-3-1-1-1]。

а у Нашиговлеяра сынъ Царь Шигалей.
そして、ナシゴヴレヤル Našigovleyar [1-5-2-1-3-1-1-1] には、子息が皇帝シガレイ Tsar' Šigaley [1-5-2-1-3-1-1-1-1]。

А у Темиркутлуева сына у Ахметя Царя дѣти:
そして、テミルクトルイ Temirkutluy [1-5-2-1] の子息、アフメト皇帝 Axmet Tsar' [1-5-2-1-1] には、諸子 [がいた]。

первой сынъ Седи Ахмать Царь,
長男 セディ = アフマト皇帝 Sedi Axmat Tsar'
[1-5-2-1-1-1]

другой сынъ Сеи Магмутъ Царь,
次男 セイ = マグムト皇帝 Sei Magmut Tsar'
[1-5-2-1-1-2]

третей сынъ Муртоза Царь,
三男 ムルトザ皇帝 Murtoza Tsar'
[1-5-2-1-1-3]

четвертой сынъ Шаахъметъ Царь,
四男 シャアフメト皇帝 Šaaxmet Tsar'
[1-5-2-1-1-4]。

пятой сынъ Хозякъ Салтанъ,
五男 ホズヤク・サルタン Xozäk Saltan
[1-5-2-1-1-5]

шестой сынъ Якубъ Салтанъ.
六男 ヤクブ・サルタン Yakub Saltan [1-5-2-1-1-6]

Третій сынъ туатемиревъ Асанъ Уланъ,
トゥアテミル Tuatemir [1-5] の三男は、アサン・ウラン Asan Ulan [1-5-3]。

а Асанъ Улановъ сынъ Улу Махметъ Уланъ.
アサン・ウラン Asan Ulan [1-5-3] の子息は、ウル = マフメト・ウラン Ulu Maxmet Ulan [1-5-3-1]。

Четвертой сынъ Туа Темиревъ Дулатъ-Текъ-Уланъ,

トゥア = テミル Tua Temir [1-5] の四男は、ドゥラト = テク・ウラン Dulat-Tek-Ulan [1-5-4]。

а у Дулатъ-Текъ-Улана сынъ Ду-Улатъ-Бедиръ Царь Крымской,

そして、ドゥラト = テク・ウラン Dulat-Tek-Ulan [1-5-4] には、子息がクリミアのドゥ = ウラト = ベディル皇帝 Du-Ulat-Bedir Tsar' Krımskoy [1-5-4-1]。

а Ду Улатъ Бедиреевъ [сынъ] Аузигирей,
そして、ドゥ = ウラト = ベディル Du Ulat Bedir [1-5-4-1] の[子息は]、アウズイギレイ Auzigirey [1-5-4-1-1]。

а Азигиревъ сынъ Менги-Гирей Царь Крымской;
そして、アズイギレイ Azigirey [1-5-4-1-1] の子息は、クリミアのメンギ = ギレイ皇帝 Mengi-Girey Tsar' Krımskoy [1-5-4-1-1-1]。

а Менгиреевы дѣти:
そして、メンギレイ Mengirey [1-5-4-1-1-1] の諸子は、

[первой сынъ] Магметъ Гирей Царь,
[長男] マグメト = ギレイ皇帝 Magmet Girey Tsar' [1-5-4-1-1-1-1]

другой сынъ Фети-Гирей Салтанъ,
次男 フェティ = ギレイ・サルタン Feti-Girey Saltan [1-5-4-1-1-1-2]

третей сынъ Сапгирей,
三男 サブギレイ Sapgirey [1-5-4-1-1-1-3]

【стр.128 (※ 原作「129」誤植につき訂正)】

четвертой сынъ Садоль Гирей бездѣтень,
四男 サドル = ギレイ Sadol Girey [1-5-4-1-1-1-4]。
子なし。

пятой сынъ Сагпъ Гирей,
五男 サガブ = ギレイ Sagap Girey [1-5-4-1-1-1-5]
шестой сынъ Мумарекъ Гирей.

六男 ムマレク = ギレイ Mumarek Girey
[1-5-4-1-1-1-6]

А Магметъ Гиреевъ сынъ Бататырь Гирей бездѣтень;
そして、マグメト = ギレイ Magmet Girey [1-5-4-1-1-1-1] の子息は、バタティル = ギレイ Batatir Girey [1-5-4-1-1-1-1-1]。子なし。

а Фетигиреевъ сынъ Сафа Гирей Царь на Казани быть,
そして、フェティギレイ Fitigirey [1-5-4-1-1-1-2] の

子息、サファ＝ギレイ皇帝 Safa Girey Tsar' [1-5-4-1-1-2-1] は、カザン Kazan' に在[位]した。

а у Сафа Гирея Царя сынъ Утемешъ Гирей,

во крещеніи имя ему Александръ;

そして、サファ＝ギレイ皇帝 Safa Girey Tsar' [1-5-4-1-1-2-1] には、子息がウテメシュ＝ギレイ Utemes' Girey [1-5-4-1-1-2-1-1]。

彼には洗礼名でアレксандор Aleksandr。

а у Сапгирея сынъ Мен-Гирей

そして、サブギレイ Sapgirey [1-5-4-1-1-3] には、子息がメン＝ギレイ Men-Girey [1-5-4-1-1-3-1]。

у Турскаго Царя быть, а убилъ его дѣдъ Крымской Царь Аузи Гирей;

トルコ皇帝のもとにいた。そして、彼を、祖父クリム皇帝 Аузи = ギレイ Krimskey Tsar' Auzi Girey [1-5-4-1-1] が殺した。

а у Мумарека сынъ Девлетъ Гирей Царь, что нынѣ на Крымѣ.

そして、ムマレク Mumarek [1-5-4-1-1-6] には、子息がデヴレト＝ギレイ皇帝 Devlet Girey Tsar' [1-5-4-1-1-6-1]。即ち、今、クリムに[在位]。

А у Тахтамьша Царя дѣти:

そして、タフタムィシュ皇帝 Taxtamış Tsar' [1-5-1-1] には諸子[がいた]。

первой сынъ Слалдигій,

長男 スラルディギイ Slaldigiy [1-5-1-1-1]

другой сынъ Залбердей,

次男 ザルベルデイ Zalberdey [1-5-1-1-2]

третей сынъ Кирбердей,

三男 キルベルデイ Kirberdey [1-5-1-1-3]

четвертый сынъ Кусюкъ,

四男 クスュク Kusük [1-5-1-1-4]

пятой сынъ Кидырбердей,

五男 キドイルベルデイ Kidırberdey [1-5-1-1-5]

на томъ же бою съ отцемъ умеръ.

同一の戦いにおいて父と共に殺された。

А Улумахметевы дѣти:

そして、ウルマフメト Uluamaxmet [1-5-3-1] の諸子は、

первой сынъ Момоктякъ Царь Казанскій;

長男 カザンのモモクテャク皇帝 Momoktāk Tsar' Kazanskiy [1-5-3-1-1]

а у Момотьяка Царя дѣти:

そして、モモテャク皇帝 Momotāk Tsar' [1-5-3-1-1] には諸子[がいた]。

первой сынъ Абраагимъ Царь,

長男 アブラアギム皇帝 Abraagim Tsar' [1-5-3-1-1-1]

другой сынъ Александръ,

次男 アレксандор Aleksandr [1-5-3-1-1-2]

третій [сынъ] Халиль Царь,

三[男] ハリル皇帝 Xalil Tsar' [1-5-3-1-1-3]

четвертой [сынъ] Мелегдаръ,

四[男] メレグダル Melegdar [1-5-3-1-1-4]

пятой [сынъ] Ахметъ Салтанъ,

五[男] アフメト・サルタン Axmet Saltan [1-5-3-1-1-5]

а во крещеніи имя Петръ.

そして、洗礼名でピョートル Petr。

А Мелегдаровъ сынъ Магметеминъ Царь,

そして、メレグダル Melegdar [1-5-3-1-1-4] の子息は、マグメテミン皇帝 Magmetemin Tsar' [1-5-3-1-1-4-1]。

другой сынъ Болетинъ Царь,

もうひとりの子息は、ボレティン皇帝 Boletin Tsar' [1-5-3-1-1-4-2]。

а Алехановы дѣти:

そして、アレハン Alexan [1-5-3-1-?] の諸子は、【マ】

А у Чингисова сына у Чегодая Царя [дѣти]

そして、チンギス Čingis の子息、チェゴダイ皇帝 Čegoday Tsar' [2] には、[諸子[がいた]]。

первой сынъ Мимбердей Царь

長男 ミムベルデイ皇帝 Mimberdey Tsar' [2-1] は、
лежитъ въ Бухарской земли,
ブハラ[の]地において葬られている。

другой сынъ Яамъ Бердей Царь

もうひとりの子息 ヤアム＝ベルデイ皇帝 Yaam Berdey Tsar' [2-2] は、
лежитъ въ Бухарской же земли,

やはりブハラの地において葬られている。

третей сынъ Зю Махъметъ,

三男 ブズ=マフメト Zü Maxmet [2-3]

четвертой сынъ Хозякъ Царь,

四男 ホズャク皇帝 Hozāk Tsar' [2-4]

пятой сынъ Маизюръ Царь,

五男 マイズル皇帝 Maizür Tsar' [2-5]

шестой [сынъ] Сеидъ Махмутъ,

六[男] セイド=マフムト Seid Maxmut [2-6]

седмой [сынъ] Хозяумаахметъ Царь;

七[男] ホズумаアフメト皇帝 Hozümaaxmet
Tsar' [2-7]

а Хозяумаахметовъ сынъ Шестреховъ,

そして、ホズумаフメト Hozümaxmet [2-7] の子息
は、シェストレホフ Šestrexov [2-7-1]

другой сынъ Маагмутъ Хузе ханъ,

もうひとりの子息は、マアグムト=フゼ・ハン
Maagmut Xuze han [2-7-2]。

а Махмутъ Хузе хановъ сынъ Даймай Царь, Ктайской
Государь.

そして、マフムト=フゼ・ハン Maxmut Xuze han
[2-7-2] の子息は、ダイマイ皇帝 Daimay Tsar' [2-7-
2-1]。キタイの君主。

А у Чингисова сына Угудея Царя дѣти:

そして、チンギス Čingis の子息ウグデイ皇帝
Ugudey Tsar' [3] には、諸子[がいた]。

первой сынъ Хостемиръ Царь,

長男 ホステミル皇帝 Xostemir Tsar' [3-1]

другой сынъ Намку Царь,

次男 ナムクー皇帝 Namku Tsar' [3-2]

третей сынъ Аябуга Царь,

三男 アヤブガ皇帝 Ayabuga Tsar' [3-3]

четвертой сынъ Тайбуга Царь;

四男 タイブガ皇帝 Taybuga Tsar' [3-4]

а у Тайбуги сынъ Камуктанъ,

そして、タイブガ Taybuga の子息は、

カムクタン Kamuktan [3-4-1]。

а Мамукташинъ сынъ Исейташъ,

そして、мамукташья Mamuktaša [3-4-1] の子息は、
イセイタシユ Iseytaš [3-4-1-1]。

а Сейташинъ сынъ Телендиктайшъ,

そして、セイタシヤ Seytaša [3-4-1-1] の子息は、

телендиктайшю Telendiktayš [3-4-1-1-1]。

а Телендиктайшинъ сынъ Сарыташъ.

そして、телендиктайшья Telendiktayša [3-4-
1-1-1] の子息は、サリタシユ Saritaš [3-4-1-1-1-1]。

А у Чингисова сына у Тюлей Царя дѣти:

そして、チンギス Čingis の子息、テュレイ皇帝
Tüley Tsar' [4] には、諸子[がいた]。

первой сынъ Халааку Царь,

長男 ハラアク皇帝 Xalaaku Tsar' [4-1]

а у Халаака Царя сынъ Аргунъ Царь;

そして、ハラアク皇帝 Xalaak Tsar' [4-1] には、
子息がアルグン皇帝 Argun Tsar' [4-1-1]。

а у Аргуна Царя дѣти:

そして、アルグン皇帝 Argun Tsar' [4-1-1] には、
諸子[がいた]。

первой сынъ Стоймаа Гмутъ, Шамъ Хасанъ,

長男 ストイマア=グムト=シャム=ハザン
Stoymaa Gmut Šam Hazan [4-1-1-1]

лежать оба въ Кизылбашехъ въ Тевризѣ градѣ.

キジルバシユ人[のもと]において、テヴリズ=
グラード Tevriz grad において葬られている。

注

1. ジュチ joči / jūjī ~ yūjī。

1-1. ベルケ berke / barka ~ barkāy。ジュチの三男。
ここにジュチの長男オルダと同次男バトが見えな
いことに注意する必要がある。

1-2. 「Итоктя」の原形は「и Токтя」即ち「および/
そして、トクテャ」であろう。即ち、トクタ
toqto'a / tūqtā。正しくはバトの曾孫。

1-2-1. ウズベク özbeg / ūzbik。正しくはトクタの兄
弟の子。

1-2-1-1. ジャーニーベク・ハン janibeg han / jānī bīk
xān。

1-2-1-1-1. ジャーニーベクの重複か。なお、ジャー
ニーベクの子は、ベルディベク berdibeg / bīrdī
bīk。

1-3. ジュチの五男シバン siban / šibān ~ šībān に対
応すると思われるが、不明。

- 1-5. トカ＝テムル toqa temür / tūqā timūr. ジュチの十三男。
- 1-5-1. トイ＝ホージャ tūy-x"āja. トカ＝テムル [1-5]の五世孫。「ウラン Уланъ」は、モンゴル帝国西部のジュチ裔・チャガタイ裔・オゴデイ裔の王族の称号「オグラン oylan / uylān」～「オーラン / ウラン ūlān」。赤坂恒明「ジュチ・ウルス史研究の展望と課題より」（吉田順一監修、早稲田大学モンゴル研究所編『モンゴル史研究 現状と展望』，東京，明石書店，2011年6月，pp.91-105），pp.94-96を参照されたい。
- 1-5-1-1-1. ジャラルルッディーン jalāl al-dīn。
- 1-5-1-1-2. ジャッパール＝ベルディ jabbār bīrdī か。
- 1-5-1-1-3. カリーム＝ベルディ karīm bīrdī か。
- 1-5-1-1-5. カーディル＝ベルディ qādir bīrdī。
- 1-5-2. テムル＝ベク・オグラン tūmūr bīk ūylān。トカ＝テムル [1-5]の五世孫。
- 1-5-2-1. テムル＝クトルク temür qutluy / tūmūr qutluy。
- 1-5-2-1-1. アフマド aḥmad。テムル＝クトルク [1-5-2-1]の曾孫。
- 1-5-2-1-1-2. サイド＝マフムード sayyid maḥmūd。
- 1-5-2-1-1-4. シャイフ＝アフマド šayx aḥmad。通説では、所謂「金帳汗国（キプチャク汗国）」の最期の汗とされる。
- 1-5-2-1-2. マフムード maḥmūd。テムル＝クトルク [1-5-2-1]の曾孫で、アフマド [1-5-2-1-1]の兄。所謂「アストラハン汗国」の初代君主とされる。
- 1-5-2-1-3. サイド＝アフマド sayyid aḥmad。アフマド [1-5-2-1-1]の子。1-5-2-1-1-1と重複しているようである。
- 1-5-2-1-3-1. アフマド [1-5-2-1-1]の五男 1-5-2-1-1-5と重複しているようである。
- 1-5-2-1-3-1-1. アフマド [1-5-2-1-1]の六男 1-5-2-1-1-6と重複しているようである。
- 1-5-2-1-3-1-1-1. シャイフ＝アウリヤール šayx awliyār。アフマド [1-5-2-1-1]の兄弟の子。「Нашиговлеяръ」は、本史料の原形となった系譜には「На Шиговлеяръ」即ち「シゴヴレヤルには」とあったのではないかと考えられる。
- 1-5-2-1-3-1-1-1. シャー＝アリー šāh 'alī。カシモフとカザンの汗。
- 1-5-3. ハサン ḥasan。トカ＝テムル [1-5]の六世孫。
- 1-5-3-1. 大ムハンマド uluḥ muḥammad xān。しばしば所謂「カザン汗国」の初代君主とされる。
- 1-5-3-1-1. Момоктякъ, Момотякъ は、カザン汗マフムード maḥmūdak xān。
- 1-5-3-1-1-1. カザン汗イブラーヒーム ibrahīm xān。
- 1-5-3-1-1-4. イブラーヒーム [1-5-3-1-1-1]の子メレ

- フ＝ダイル Melex Dair / Meleg-dair。
- 1-5-3-1-1-4-1. カザン汗ムハンマド＝エミーン muḥammad īmīn xān。イブラーヒーム [1-5-3-1-1-1]の子。
- 1-5-3-1-1-4-2. カザン汗アブドゥッラティーフ 'abd al-laṭīf。イブラーヒーム [1-5-3-1-1-1]の子。
- 1-5-3-1-1-5. ロシア正教に改宗してピョートルと改名したのは、イブラーヒーム [1-5-3-1-1-1]の子、クダイグル Kudaigul。
- 1-5-3-1-?. カザン汗アドハム adham xān。イブラーヒーム [1-5-3-1-1-1]の子。本系譜では、大ムハンマド [1-5-3-1]の次男以下の記載は欠けており、アレハンの出自が不明。また、系譜関係にも誤りが多い。
- 1-5-4-1. ダウラト＝ベルディ dawlat bīrdī xān。大ムハンマド [1-5-3-1]の従兄弟にあたる。クリミア汗国の初代君主ハージー＝ギレイ [1-5-4-1-1]の父の兄弟。
- 1-5-4-1-1. Аузигирей, Азигирей, Аузи Гирей は、クリミア汗国の初代君主ハージー＝ギレイ ḥājī kirāy xān。
- 1-5-4-1-1-1. Менги-Гирей, Менгирей は、クリミア汗メングリ＝ギレイ mīnkī kirāy xān。
- 1-5-4-1-1-1-1. クリミア汗ムハンメド＝ギレイ muḥammad kirāy xān。
- 1-5-4-1-1-1-1-1. 「Багатырь」は「Багатърь (Bagatir)」とあるべきもの。即ちバハドゥル＝ギレイ bahādur kirāy。
- 1-5-4-1-1-1-2. フェトフ＝ギレイ faṭḥ kirāy。
- 1-5-4-1-1-2-1. カザン汗サファー＝ギレイ šafā kirāy xān。
- 1-5-4-1-1-1-5. サーヒブ＝ギレイ šāḥib kirāy xān。
- 1-5-4-1-1-1-6. ムバーレク＝ギレイ mubārak kirāy。
- 1-5-4-1-1-1-6-1. デヴレット＝ギレイ・ハン dawlat kirāy xān。在位1551年秋?～1577.6.25。
- 1-6. クリミア汗国の初代君主ハージー＝ギレイ [1-5-4-1-1]の祖父にあたるバシュ＝テムル baš temür / bāš-tīmūr に対応するか。不明。
2. Чагадай, Черодай は、言うまでもなくチャガタイ ča'adai / čayatai / čayatāy のこと。
- 2-7. Хозямаахметъ, Хозямахметъ は、ホージャ＝ムハンマド x"āja muḥammad と復元できる。しかし、具体的に誰に比定できるかは不明。
- 2-7-1. 「Шестреховъ」は、元来、人名でなかった可能性が高いように思われる。
- 2-7-2. Маагмутъ Хузе ханъ, Махмутъ Хузе ханъ は、マフムード＝ホージャ汗 maḥmūd x"āja xān と復元できる。ジュチの五男シパンの子孫に同名の汗

がいるが、これに比定できるか否かは不分明。

- 2-7-2-1. 「ダイマイ Даймай」は、「Дайминг (大明)」または「Дайюан (大元)」に復元することが可能か。
- 3-4. 史実とは全く合致しないが、シビルのタイプガ家の祖、タイプガに比定されよう。
- 3-4-1. Камуктанъ, Мамукташа は同一人。マムク = タイシャ Мамук-тайша (Mamuk-tayša) と復元されるか。シベリア汗国の前身、テュメン汗国出身のカザン汗 (1496-1497)、マムク māmūq (ジュチの五男シバンの子孫) の名に基づくと思われる。タイシャとは、カルムイク人の称号「taiji」に対するロシア人の呼称。つまり、「マムク = タイシャ」の復元が正しいとするならば、この名から、ロシア人が、シベリアのシバン裔と、カルムイク人とを混同して、共にオゴデイ・ハーンの子孫であると認識していたことを、窺い知ることができるのではないか、と思われる。
- 3-4-1-1. Исейташъ, Сейташа は同一人。「Исейташъ」は、本史料の原形となった系譜には「и Сейташъ」即ち「および/そして、セイタシュ」とあったのではないかと考えられる。
- 4-1. イル汗国初代君主フレグ hūlegü / hūlākū。なお、本系譜では、トルイ [4] の次男 —— フレグ [4-1] の弟 —— 以下の記載は欠けている。
- 4-1-1. イル汗第四代君主アルゲン arγun / arγūn。フレグの孫。なお、本系譜では、アルゲン [4-1-1] の次男以下の記載は欠けている。
- 4-1-1-1. 「С[ул]тан Маагмут Шахъ Хазан (s[ul]tan Maagmut Šax Hazan)」と復元される。即ち、スルターン・マフムード・シャー・ガザン sulṭān maḥmūd šāh yāzān。なお、キジルバシュ人とはサファヴィー朝のこと。テブリズ = グラードとはタブリーズ tabriz 市のこと。